ぐんまの家
Gunma Housing Award
まちなか住宅賞

薪ストーブの家

設計者／田村建築設計工房　施工者／分離発注

子どもに伝え、子どもの役割がある家

設計趣旨 CONCEPT

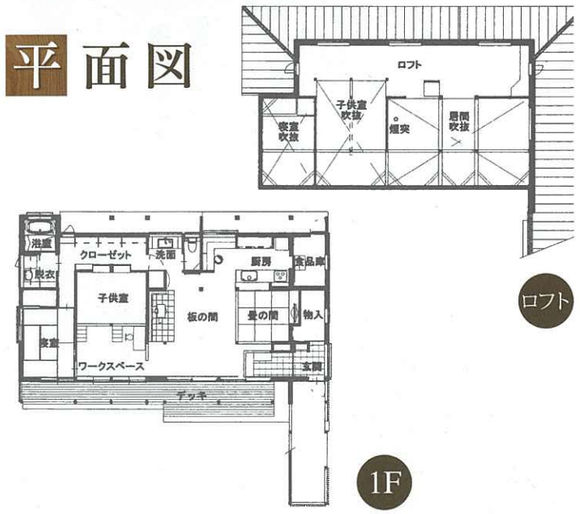
街道に面した家並みの一つになるように白壁と弁柄塗りの木板と格子を用いて景観に溶け込むよう配慮した。建物の高さを抑え自然な形周囲へ親しみを感じさせ馴染みやすくなる。

手間や時間を楽しむ建て主のために、伝統的継手を多用した手刻みの軸組を採用し、建て主工事として内外木部弁柄塗りやウール断熱材の付加断熱工事など積極的に家づくりに参加した。工事に参加することで塗り替えなどのメンテナンスが容易に出来るとともに作業をしている姿を子供達に伝えることができる。薪ストーブは薪集めや薪割から煙突掃除まで手間のかかる暖房器具だが構造が単純なため適切な使い方さえしていれば故障のない暖房器具である。手間暇を楽しむ建て主らしい選択である。

住まいは建て主の日常や季節の行事などの体験を引き起こすための空間だと考えている。家族が一緒に過ごした大切な思い出となるように、ひな祭りや節句の際に飾りもののできる一段上がった畳コーナー、七夕やお月見の場所としてのデッキなど季節の行事を楽しむことが出来る。特別な行事だけでなく開口部からは庭の花木、家庭菜園等の外部ともつながり、季節や時間による変化を生活の中に取り入れる。

寒冷地の住宅だが次世代省エネ基準を大きく上回る断熱性能と高気密仕様としなるべく冷暖房に頼らない家とした。冬季は日中の日差しと夕方に炊きつける薪ストーブ一台で家中が暖まり、夏季は深い軒で日差しをコントロールしロフトの常時開放可能な開口部から暖気が抜ける風通しの良い室内空間になっている。

平面図



講評 REVIEW

中之条から湯河原への街道が東に接する敷地です。

道路からの騒音と視線を考慮した、木格子のリズミカルなポーチから玄関・土間に入ると、薪ストーブを中心に、板の間、一段上がった畳の間、その北側にオープンな厨房、ストーブの西側奥にワークスペース、1.4メートル上階に子供室、さらに北側にスキップして小屋裏収納として広いロフトがあります。この全ての部屋を、片流れ屋根の自然素材で構成された大空間が包み込み、大きく広がる住空間を形成しています。さらに南側のデッキから広い庭の花木、家庭菜園等の外部につながっています。建築主の思いを大きく取り込んだ設計、建築主が自ら参加した自然木弁柄塗り等、手間をかけた家づくりと手間を楽しむ生活をしたいと言う建築主の思いが実現しているようです。街並みを考慮した、白壁と弁柄塗りの木板と木格子、片流れのシャープな屋根が、街の風景を構成している美しい住まいです。